学校教育目標　「笑顔と拍手につつまれて　夢に挑戦　根岸の子」

# ねぎし

横浜市立根岸小学校
学　校　だ　よ　り
６月号　家庭数
令和５年５月３１日
ホームページはこちら→

## 言葉を獲得する

副校長　武藤　裕子

今年度着任しました、副校長の　武藤　裕子　と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
４月に着任して、まず印象的だったのは、やはり大きな２本のクスノキです。根岸小学校と言えば「校庭の真ん中に大きな木がある学校」ということは、以前、磯子区の小学校にいたことがあるので知っていました。でも、久しぶりに見たクスノキは前より成長しているようで、その巨大さに改めて目を見張りました。朝と夕に校舎を回っていると、多くの教室の窓からこの巨木の青々とした葉が眺められ、とても癒されます。また、２本目のクスノキがあることも初めて知りました。くすたろうより小さめですが、校舎に寄り添って立つこの木もとても趣があります。この大きな木々に見守られて、これまでたくさんの子どもたちが根岸小で大きく成長してきたことでしょう。

さて、根岸小を印象付けるこの「クスノキ」の前に言葉をつけるとしたらどんな言葉がふさわしいでしょう。まず「大きなクスノキ」でしょうか。葉が青々としていることから「元気なクスノキ」もよいでしょう。他にはどうでしょう。「かっこいいクスノキ」「力強いクスノキ」「雄大なクスノキ」…。姿かたちだけを見て考えるとこんなところでしょうか。
さらに考えてみます。根岸小に古くからある木ですから、それはただ大きいだけではないのです。「歴史のあるクスノキ」「１３０年以上生きているクスノキ」「根岸小に欠かせないクスノキ」「みんなを見守るクスノキ」…。
また、クスノキとの関係性によっても言葉は変わってくるでしょう。「友達との待ち合わせ場所になるクスノキ」「鬼ごっこの目印になるクスノキ」「私を励ましてくれるクスノキ」「懐かしいクスノキ」…。

このように、同じ木を言い表すにしてもたくさんの表現方法があります。根岸小の子どもたちに聞いてみたらもっと多くのバラエティに富んだ言葉が出てくるでしょう。それは、クスノキとどれだけ深く関わっているかにもよると思いますが、それだけでなく、どれだけ言葉を獲得してきたかということも表現に大きく関わってくるのだと思います。人は生まれてからいろいろな経験をするなかでたくさんの言葉を知り、それを自分で使う力を身に付けていきます。そして、それは自分一人でできることではなく、周りの人との関わりや交流が多くあることで身に付いてくるのではないかと思います。

先日、２年生の生活科の授業を参観しました。そこで教師が児童に「野菜を育てるためには何が必要ですか。」と問いかけました。勢いよく手を挙げる子どもたち。その発言には光るものがありました。例えば「水を入れるペットボトル」という発言。ただ「ペットボトル」と言うのではなく、「水を入れる」という用途を付け足しているのです。また、「もうちょっと大きい植木鉢」という発言。これは、野菜が大きく育つには１年の時の植木鉢より大きな物が必要なのではないかと思ったゆえの発言です。また、うまく植えるにはどうするかという問いかけに「知っている人がお手本を見せる」「分かる人と一緒に植える」「説明書がないのかな」など。「３年前の記憶だから確かじゃないけど…」という言葉には感心してしまいました。子どもたちは授業のなかで友達が発する言葉を聞いてその意味を知り、使い方を知り、自分でも使えるようになるのです。
また、学校のことではありませんが、先日、大変混んでいる店で買い物をしていたとき、「失礼します」と声がかかったので店員さんかと思ったら横を通り過ぎたのは中学生ぐらいの子でした。「すみません」はよく聞きますが、「失礼します」はなかなか言えない言葉です。とても気持ちよく感じました。このように獲得した言葉を普段の生活で使えるのは素晴らしいことです。

日々成長していく子どもたち、多くの言葉を自分のものにして、自分の思いや考えを豊かに表現できるよう、教職員も日々研鑽し、充実した教育活動を行ってまいりたいと思います。